

発表会に関する小委員会報告

大学院運営委員会教育デザイン小委員会
満尾 貞行・関戸 英紀・工藤 由貴子

1. 目的

横浜国立大学教育学研究科1年生の必修・コア科目である「教育デザイン」の授業の一環であり、研究成果の発表の場であり、異なった領域の研究発表を聞くことで多様な研究事例・研究方法、教育教材を知ることである。

2. 日程とタイムスケジュール

平成27年10月24日土曜日 11:30-12:35
11:30-12:00 (第一発表者 15分発表×2)
12:05-12:35 (第二発表者 15分発表×2)

3. 場所

横浜国立大学 教育人間科学部 講義棟7号館
2F (201、211) と 3F (301、302、305～311)

4. 発表内容

別頁に記載されたとおりである。

5. 発表の実施形態

平成23年度から今年度まで、5年間同じ実施形態である。今年度より司会者進行を院生が担当し、さらに時間を厳密に進めた。

① タイムスケジュール：各教室で前半の発表（質疑応答を含む15分の発表を2回行う。11:30-11:45、11:45-12:00）と後半の発表（12:05-12:20、12:20-12:35）を実施した。質疑応答の時間は、各発表者の判断による。

② 発表方法：ポスターセッションである。A1サイズのポスターに発表内容をコンパクトにまとめたものから、A1×2か3くらいの広さにパワーポイントで作成した原稿を複数枚貼り付けたものまで、様々な工夫があった。こういったポスターを黒板に貼り、その前で順次説明をしていく方式が中心であった。

③ 発表資料：レジメやハンドアウト等は各発表教室の入り口に置き、参加者（院生、高校生、一般の方々など）に取ってもらった。

6. 成果

発表者は、アカデミックな発表の体験をし、自分の所属する、もしくは異なった領域の大学院生や教員等との質疑応答を通して、様々な視点を知ることができたのではないかと。自分の研究をさらに深めるキッカケになったのではないかと。院生参加者は、異なった領域の研究内容、研究方法（データの収集方法、分析方法など）等、教育教材を知ることによって、自分の研究を見つめなおす糧となったと考えられる。成果が、今後の大学院における研究や修士論文に表れることを期待したい。

7. 発表会の今後の課題

明確な課題は日程である。例年はホームカミングデーと同日の開催であったが、今年度は落ち着いた環境で発表をすることを重視し、フォーラム発表は、ホームカミングデーの前の週に実施した（教育デザインフォーラムの実施：10月24日、ホームカミングデーの実施：10月31日）。集客の視点からはマイナスである。来年度については、大学院説明会と同日に実施し説明会参加者に発表を聴いてもらう、という案も検討されている。本学における研究に興味を持っているからこそ大学院説明会に参加する人たちに、コア科目「教育デザイン」の一環である発表会を聴いてもらうことは意味がある。

8. 結びに代えて

グローバル人材の育成が急務であると言われていいる。学習指導要領改訂の方向性も無論そちらに向いているであろう。指導要領では教育の「内容面」に触れているが「方法」については触れていない。アクティブ・ラーニングもしかりである。今後、さらにカリキュラム・デザインの研究と工夫が求められるようになる。本研究科のコア科目である「教育デザイン」がいつそ社会に貢献できるよう、院生、教員共々切磋琢磨していきたい。